

くまもと県北病院に通院中または過去に通院・入院された患者さままたはご家族の方へ当科における臨床研究にご協力をお願いいたします。

2024年 1月 10日

「新型コロナウイルス」に関する研究を実施しています。

くまもと県北病院倫理委員会の審査による承認を得て、上記研究を実施しています。

この研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、

研究内容の情報を公開することが必要とされています。

倫理審査承認番号	202318
課題名	軽症・中等症として入院したCOVID-19患者における入院長期化の関連因子
所属（診療科等）	熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座
研究責任者	北村 泰斗
研究実施期間	倫理審査承認日～2029年3月31日
研究の意義・目的	<p>新型コロナウイルスは、2019年12月、中華人民共和国湖北省武漢市において初めて確認されて以降、日本においても周期的なピークを繰り返し今日に至っています。日本は、諸先進国に比べ、国民皆保険制度等により医療を受けることが比較的容易であり、かつ入院病床数が多い一方で、医療従事者の数は諸先進国とほぼ同レベルにあるといった背景から、医療従事者一人あたりの労働負担が強く、ピーク時に「医療ひっ迫」という問題を常に抱えています。こういった状況下においては、可能な限り医療の円滑化を図っていく必要があります。しかし、実際には新型コロナウイルスの軽症・中等症で入院となり、退院基準を満たしもなお、なかなか退院できない方も多く、さらなる医療逼迫を生むという負の連鎖を生じている状況にあります。</p> <p>厚生労働省が示すデータでは、「軽症・中等症における長期入院患者のおよそ6割が、新型コロナウイルスの症状以外」の理由により入院を継続していると試算されており、その長期化理由の内訳として、「転院調整」、「受け入れ先なし」、「コロナ以外の疾患」等が挙げられ、行政では、これらに対する退院・転院支援に向けた施策がなされています。一方、これらの入院が長期化するそもそもの背景要因についての検証は十分にはなされていません。</p> <p>これまで、新型コロナウイルスにおいて、重症化予防に向けた研究が盛んに行われてきた一方、軽症・中等症患者の入院が長期化してしまう要因について検討された研究は少ない状況にあります。</p> <p>また、実臨床の視点では、個々の生活背景が退転院に多分に影響を及ぼしている場面にしばしば遭遇します。これらから、個々の生活背景と入院長期化に関係があるのかどうかを解析することにより、医療の円滑化や自治体等への提言を通じた社会づくり、医療費の削減等に寄与したいと考えています。</p> <p>本研究を実施するくまもと県北病院は、熊本県の二次医療圏における有明圏域において、軽症から中等症の新型コロナウイルス感染症患者における入院加療の中核病院として機能しています。また、ピーク時においても医療崩壊することなく継続的に患者の受け入れを行ってきた経緯から、対象患者の他圏域への流入は比較的少なかったと類推されます。これらから、有明圏域における軽症から中等症の新型コロナウイルス感染症患者を母集団とする解析に最も適した施設であると考えられ、本研究の着想に至っています。</p> <p>本研究の位置づけとして、まずは、有明圏域における軽症から中等症の新型コロナウイルス感染症患者における入院期間と患者背景との関連性を調べることにより、同地域の医療・福祉に寄与していくことが第一義的に挙げられます。そして、今後、本研究で得られた知見や仮説の検証が、普遍的な事柄であるか否かを、日本や世界の他地域との比較において検証が必要と考えています。</p>
対象となる方	くまもと県北病院において、新型コロナウイルス（軽症・中等症）の診断で入院となった方（18歳以上）。
利用する診療記録・検体	本研究は、既存のカルテ情報のみを用います。

研究方法	<p>2021年3月1日～2023年3月31日までの期間において、地方独立行政法人・くまもと県北病院におけるCOVID-19の診断（軽症・中等症）で入院となった方（18歳以上）を対象として、電子カルテの情報を取得し解析を行います。</p> <p>電子カルテから取得する情報の種目：</p> <p>年齢、性別、人種、身長、体重、発症日、検査日、入院日、退院日、入院期間、転帰、入院時病棟、ワクチン接種歴、基礎疾患、薬剤歴、3ヶ月以内の再入院、アレルギー、飲酒歴、アルコール依存症の治療歴、喫煙歴、入院時妊娠、職業、キーパーソン、入院前介護度、入院時ADLスコア、HDS-R、身体障害、入院前からの褥瘡、入院前からの経管栄養、入院前からの気切管理、入院前食事形態、入院前所在、施設入所種別、利用介護サービス、入所後所在、家族構成、医療費区分、公費負担医療給付区分、感染経路、入院時重症度、入院時バイタルサイン、新規酸素投与、治療内容、入院長期化の理由、入院中の合併症、採血データ等。</p>
問合せ先	<p>研究責任者：北村 泰斗（熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任助教）</p> <p>医局：096-373-5631</p> <p>くまもと県北病院：0968-73-5000</p>

- 診療記録、検査結果を研究、調査、集計しますので、新たな診察や検査、検体の採取の必要はありません。
- 当院外へお名前や個人情報がでることはありません。
- 必要な情報のみを集計します。
研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌で発表しますが、患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
- この研究にご自分の診療記録等を利用することをご了承いただけない場合、またご不明な点については上記問合せ先までご連絡くださいますようお願いいたします。
- 研究不参加を申し出られた場合でも、何ら不利益を受けることはありません。
ただし、同意取り消しの申し出をいただいていた時、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合や試料や情報が匿名化されて個人情報が全く特定できない場合などには結果を廃棄できないことがあり、引き続き使用させていただくことがあります。